

国情研コ第29号
令和6年5月8日

国立大学図書館協会
公立大学協会図書館協議会 各加盟館の長 殿
私立大学図書館協会

これからの学術情報システム構築検討委員会委員長
中央大学文学部教授

小山 憲 司

図書館システム・ネットワーク「ユーザーグループ」SNSへの
登録のご案内について（通知）

平素より大変お世話になっております。

本委員会では、貴協会（協議会）加盟館の図書館員等が、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進するにあたり、意見交換する場として、2023年に図書館システム・ネットワーク「ユーザーグループ」というSNSを立ち上げました。

まだご登録されていない方には、ぜひ一度ご覧いただき、日々の業務の一助としていただくとともに、国内の学術情報基盤の構築にご協力いただけますと幸いです。

参加方法などの詳細につきましては、別紙をご覧ください。

（本件担当・問い合わせ先）

これからの学術情報システム構築検討委員会
ユーザーグループ運用作業部会

<https://contents.nii.ac.jp/form/usergroup-inquiry>

ユーザーグループについて

1. ユーザーグループとは

- ユーザーグループとは、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進するために、「意見や情報の交換」、「共通課題の解決」、「人材の育成、能力開発」などに関わる活動を行うグループです。
- 以下の方がご参加いただけます。
 - ① 「図書館システム・ネットワーク」ⁱを利用する図書館員等※
 - ② その他、グループの目的に賛同する機関等で委員会が認めたもの
- ※①は、申請手続き及び委員会の承認なく無条件で参加いただけます。
- 参加は無料です。
- ユーザーグループの運営は、これからの学術情報システム構築検討委員会が設置する「ユーザーグループ運営作業部会」が行います。
- ユーザーグループウェブサイト
<https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/usergroup>

2. ユーザーグループ SNS について

- ユーザーグループの構成員が自由に情報や意見を交換できるユーザーグループ SNS を提供します。具体的には、Discord (<https://discord.com/>) を利用し、「これから委員会ユーザーグループ」サーバ（複数人でのテキストメッセージ交換等が可能になる Discord のグループ機能）を立ち上げます。
- Discord は、インスタントメッセージやビデオ／音声通話を利用できる Discord 社によるサービスで、本ユーザーグループでは基本機能（無料）のみを使用します。
- Discord のご利用には、Discord の「プライバシーとポリシー」が適用されます。
- ユーザーグループ SNS での参加・発言は、各機関の情報セキュリティポリシーに従ってください。
- Discord のサーバプロフィールのニックネームは「所属）氏名」を使用してください。（例：「NII）国情花子」）
- 具体的な Discord の設定手順は以下のとおりです。

- 1) Discord のアカウントを <https://discord.com/> で作成する ※1
- 2) 当該アカウントでログインした状態で、招待リンクにアクセスしユーザーグループサーバに入る
招待リンク：<https://discord.gg/uBTVG2K5bT> ※2

※1 アカウント作成に際し、生年月日の入力を求められます。これは Discord 社がプライバシーポリシー (<https://discord.com/privacy>) に従って年齢制限のあるコンテンツへのアクセスをコントロールするためのもので、この情報を本委員会が使用

することはありません。
※2 招待リンクは、「図書館システム・ネットワーク」ⁱを利用する図書館員等以外へは公開しないでください。

3. 内規

ユーザーグループに関連する内規については、以下を参照ください。

<https://contents.nii.ac.jp/korekara/rule>

以上

ⁱ 図書館システム・ネットワーク

現在の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）など、図書館がシステムを通じて相互に連携・協力を行うためのネットワーク。NACSISCAT/ILL を中心とした図書館システム・ネットワークでは、共同利用システムである NACSIS-CAT/ILL に、参加機関が運用する図書館システムが CATP プロトコルで接続して（一部 WebUIP、Z39.50）書誌情報及び所蔵情報を共有し、30 年以上にわたり印刷体を主とした目録業務や相互利用業務を効率的に行ってきた。

（参考）これからの学術情報システムの在り方について（2019）

<https://doi.org/10.20736/0002000923>